

市川市議会に二つの百条委

政活費めぐり応酬

市川市議会が二つの百条委員会の設置を24日に決めた。地方自治法に基づく調査権限を持つが、同時に二つ設置するのは極めて異例だ。市議29人が疑義を指摘され、調査対象とされた政務活動費とは何か。これまでの動きとともに、その仕組みや収支報告の内容をたどる。

発端は、市民から今年8月に市に出された住民監査請求だった。一部会派が2011年度に政務調査費、13年度に政務活動費で切手を大量に購入したのは合理的

会派	議員	内容	合計金額	領収証日付
みらい	A	はがき 50円×7510枚	37万5500円	1月14日
みらい	B	切手 50円×4000枚	20万円	3月10日 26日
みらい	C	切手 80円×5200枚	41万6000円	3月12日
みらい	D	切手 80円×2600枚	20万8000円	3月12日
みらい	E	切手 80円×2600枚	20万8000円	3月14日
みらい	F	切手 内訳不明	9万5000円	3月20日
ボランティア・新生会 ア・市民の風	2人 所属	切手 80円×17000枚	136万円	5月16日 11月14日 1月31日
緑風会第1	2人 所属	切手 80円×3000枚	24万円	6月6日

会派は2013年度当時。緑風会第1は同年12月から3人。

性を欠き、不正支出の疑いがあるとして、市への返還を求めた。市監査委員は11月、「政務活動に反する事実は認められなかった」とこれを棄却。だが、「切手は換金性が高く、不正の温床となる可能性が否定できない。取り扱いには細心の注意が必要」などと意見がつけられた。

市から会派へ 半年ごと交付

市川市議会の政務活動費は条例と施行規則で定められている。市政について調査研究をする上で必要な経費の一部として、市が交付する。議員2人以上でつくる団体（会派）に対して、所属議員一人につき月額8万円が支給される。交付は年2回で、年度初めの4月に9月までの上半期分、10月に3月までの下半期分が会派に振り込まれる。会派の代表者は、領収証を添えて、年度分の収支報告書を作成し、交付された1年分の政務活動費の総額から、実際に支出した総額を引いた残金を市に返還する仕組み。不正な請求があった場合は、市議会事務局によると、切手代は、事務費の中の通信運搬費に該当する。会報を送るなどの用途や使用時期を報告しなければならず、基本的にその年度内に使い切るようになっていく。

その後、複数の市議が「監査委員の調査では限界がある」として、12月定例会の最終日の16日、議員14人を調査対象にした百条委設置を協議。本会議で協議が続いたが、時間延長を決める採決の場に正副議長が現れず、時間切れで流会、閉会する事態となった。

さらにこの百条委設置を協議する24日の臨時会で、調査対象とされた会派の議員らが、発議した側の議員ら18人を調べるための別の百条委設置案を提出。切手以外に解明が必要な11、13年度の支出として、政党组织紙や書籍など市政活動と認められない資料の購入費

▽必要な範囲を超えた備品の購入費▽常識では考えられない回数の出張や議会中に出張時の調査研修費などを挙げた。

この事態に、大久保博市長は「二つの百条委が設置されれば、市民から公正さに疑念を抱かれる恐れがある」とし、先行して外部専門家による外部監査を行うことを決めた。

切手大量購入「正当」と説明

市民から住民監査請求が出されたことを受け、朝日新聞は市川市議会の政務活動費（政務調査費）の収支報告書を開示請求し、確認した。

1人を除き、年度末の3月に集中。うち2人は日本郵便の通販で記念切手を購入、別の1人は金券ショップで購入したとしていた。

また11年度は「ボランティア・新生会・市民の風」の2人と統一会派だった「社民・市民ネット」（5人）が2月に計48万円の切手を購入したと報告した。

分購入したとしていた。また11年度は「ボランティア・新生会・市民の風」の2人と統一会派だった「社民・市民ネット」（5人）が2月に計48万円の切手を購入したと報告した。

当時の緑風会第1の経理責任者・松永鉄兵市議は「切手は市政課題に対するアンケートの返信用はがきに使った。市民に市政報告会に配ったり、後援会・紹介者の名簿をもとに郵送したりしてお願いした」と説明した。

これによると、2013年度は、会派「みらい」の6人が計150万2500円分の切手やはがきを購入したと報告した。購入日は

5、11、1月の3回に分けて、切手を計136万円分購入。「緑風会第1」（2人）は6月に切手を24万円

分購入したとしていた。また11年度は「ボランティア・新生会・市民の風」の2人と統一会派だった「社民・市民ネット」（5人）が2月に計48万円の切手を購入したと報告した。

当時のボランティア・新生会・市民の会の経理責任者・小泉文人市議は「活動

報告や市政報告の際、返信用のアンケートはがきに切手を貼って配った。後納の方が料金が高い。切手は使い切った」と話した。